CST ラボサーチ

興味のあるキーワードを ☑ Check!

チェックの数が多い学科ほど、キミにぴったりの可能性大！
学科選びの参考にしてください。

日本大学理工学部
日本大学短期大学部(理工学部併設・船橋校舎)
駿河台キャンパス　〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14　TEL 03-3259-0514(原務課)
船　橋キャンパス　〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1　TEL 047-469-5330(原務課)
www.cst.nihon-u.ac.jp

	土木工学科	交通システム工学科	建築学科	海洋建築工学科	まちづくり工学科	機械工学科	精密機械工学科	航空宇宙工学科	電気工学科	電子工学科	応用情報工学科	物質応用化学科	物理学科	数学科	建築・生活デザイン学科	ものづくり・サイエンス総合学科	
	人々の生活に欠かせない道路、鉄道、空港、上下水道、電気、ガスなどの社会インフラ整備や、安心・安全な暮らしを実現するための防災に関する学問を学び、理論と実践力を備えたエンジニアを育成します。	交通にかかわる施設・設備・管理・運用の計画とデザインを「情報」「環境」の最先端技術で幅広く学べる交通のパイオニアの学科です。世界に活ボくエンジニアをはじめ、未来の建築に関わる多彩なスペシャリストを育成します。	有史以前より、人間と建築の関わりには数千年の長い歴史があります。建築の幅広い分野を網羅する教授陣によって、デザイナー、エンジニアをはじめ、未来の建築に関わる多彩なスペシャリストを育成します。	建築のデザイン・計画論や構造技術に関連する学問を学びながら、陸だけでなく海でもそれらを実践するための知識を修得し、海を活用する術を知る建築デザイナー・エンジニア、海洋工学技術者を育成します。	“ものづくり”を通して、人々の暮らしを豊かにするために、幅広い知識と実体験に基づいた統合的な能力を有し、創造性豊かなバイタリティーある技術者を育成します。	機械工学科は、機械技術の基礎となる力学科目と計測制御工学、情報工学、電気工学を合わせたカリキュラムに沿って幅広く学習することで、“情報、電気に強い機械技術者”を育成しています。	精密機械工学の基幹となる力学科目と計測制御工学、情報工学、電気工学を合わせたカリキュラムに沿って幅広く学習することで、“情報、電気に強い機械技術者”を育成しています。	航空機や宇宙機の設計開発に必要な力学系科目と専門科目をベースとしたカリキュラムにより、幅広い知識と研究・開発能力を総合的に学ぶことで、空や宇宙で活躍できるエンジニアを育成します。	エネルギー、エレクトロニクス、情報・通信および環境に重点を置いた教育を行い、さらに資格取得に優れたカリキュラムで、国内外でリーダーとして活躍できる技術者・研究者を育成しています。	電子回路、電子デバイス、通信、情報処理に関する基礎から最先端技術までを学べます。また多彩な実験や実習を通して、新たな電子工学を開拓できる技術者・研究者を育成します。	情報処理、ネットワークシステム、組込みシステムに関する専門的な知識を修得し、さらに実験や実習により実践力を養い、豊かな創造性で、社会で活躍する技術者・研究者を育成します。	化学を基礎として物質の性質や化学反応を学び、環境や生命に関わる新物質の創造と実用化への応用を学びます。国内外のリーダーとして、ユニークな視野に立ち、広範な教養を有する土壌改良剤	純粋物理から応用物理までバランスよく学べることが特徴です。幅広い素養で要求される物理と数学の普遍的な考え方や知識を身につけることで、エンジニアや研究者、教員などとして活躍できます。	全国でも珍しく、純粋数学と情報科学を学ぶ両方が同一学科内で学べます。また、中学校・高等学校における教員養成のため、考え抜かれたカリキュラム編成となっています。	建築・インテリアから都市・ランドスケープまで、技術と芸術が融合した生活空間・建築環境について、「デザイン系」「エンジニアリング系」の2つの専門分野を中心に学びます。	ものづくり・サイエンス総合学科	幅広い専門分野（機械工学、電気電子工学、情報科学、応用化学、物理学、数学、総合科学）の中から、自らの興味に適性に応じて、入学してから半年後に、主として学ぶ専門分野を決めることができます。	目指せる業界・職種
目指せる業界・職種	□国家公務員 □地方公務員 □公社企業 □総合建設業 □専門建設業 □コンサルタント業 □道路・鉄道運輸関連	□国家公務員 □地方公務員 □公安委員会（交通技術） □道路・鉄道輸送業 □電気・通信事業 □都市開発・不動産業 □コンサルタント業 （交通・都市・環境・情報・物流など） □研究者　□教員	□国家公務員 □地方公務員 □都市計画 □総合建設業 □住宅建設業 □都市開発・不動産業 □音響・照明 □エンジニア □コンサルタント業 □研究者 □教員 □学芸員	□建築設計 （意匠・構造・設備） □建築施工管理 □建設コンサルタント □海洋開発 □地方公務員 □研究者 □教員 □造船・重工業	□技術士 □砕理士 □自動車 □輸送機器 □電気電子医療機器 □産業 □建設業 □情報サービス業 □製造技術	□生産技術 □品質管理 □機械設計 □研究開発 □保守 □国家公務員 □地方公務員 □教員	□開発技術者・設計技術者・研究者・技術営業・デザイナー（自動車、輸送機器、電機、エレクトロニクス、メカトロニクス、産業機械） □システムエンジニア・ネットワークエンジニア・プログラマー（インターネット、メディア） □教員 □公務員	□航空機設計・開発 □宇宙機設計・開発 □精密機械設計・開発 □輸送用機械製造業 □航空・鉄道運輸業 □精密機械製造業 □電気電子製造業 □情報通信業	□研究開発 □機械設計 □システム設計 □システムエンジニア □電気工学士 □研究者 □国家・地方公務員	□電気電子系研究開発技術者 □電気主任技術者 （建設、工場） □鉄道技術者 （情報、ネットワーク） □無線通信士 （ネットワーク、運用） □技術士・技術士補 □砕理士 □陸上無線技術士 （第一級・第二級） □陸上特殊無線技士 （第一級） □海上特殊無線技士 （第一級・第二級） □陸上無線技術士 （第一級・第二級） □陸上特殊無線技士 （第一級） □海上特殊無線技士 （第一級・第二級） □IT/ハード □基本情報技術者 □応用情報技術者 □情報セキュリティマネジメント □ネットワークスペシャリスト □データベーススペシャリスト □ITサービスマネジメントスペシャリスト □アプリケーションエンジニア □システム監査技術者 □プロジェクトマネージャ □ITストラテジスト □システムアーキテクト □プログラマー □ネットワーク □データベース □エンベデッドシステムスペシャリスト □組込みシステム技術者 □情報セキュリティアドミニストレータ □ネットワーク □システムアーキテクト □プロジェクトマネージャ □システム監査技術者	□電気通信主任技術者 □エンベデッドシステムスペシャリスト □CCNA(Cisco Certified Network Associate) □海上特殊無線技士（第一級） □陸上特殊無線技士（第一級） □第一種電気通信主任技術者 □工事担任者 □基本情報技術者 □ディジタル回路設計・製作技術者 □CGエンジニア検定 □オラクルマスター	□研究・技術開発 （化学・工業・医薬品・香料・化粧品・塗料・石油・石炭・ゴム・皮革・繊維・紙パルプ・食品・飲料・金属製品・セメント・建設資材・プラスチック製品・繊維加工品など） □医薬部外品製造業 □食品技術者 □環境計量士 □危険物取扱者 □公害防止管理者 □甲種 □毒物劇物取扱者 □食品衛生管理者 □施工管理 □品質管理・生産管理 □専門商品知識売業 □情報サービス業 （システムエンジニア、プログラマー） □公務員 □教員	□エンジニア（電気、エネルギー、自動車、鉄道、航空宇宙、材料、医療、通信） □システムエンジニア（建設、機械、機械、情報通信、学習） □生体光学エンジニア □メガネ・コンタクトレンズ製造・販売 □研究者 □教員 □学芸員	□基本情報技術者 □ITパスポート □情報セキュリティマネジメント □応用情報技術者 □CGエンジニア検定 □画像処理エンジニア検定 □マルチメディア検定	□建設会社（設計・施工管理） □設計・事務所（設計・構造） □住宅メーカー（設計・施工管理） □設備（設計・施工管理） □建材・管理（営業） □インテリア・内装（設計・施工管理） □造園・エクステリア（設計・施工管理） □不動産（営業・コンサルタント） □公務員 □4年制大学への編入学	□一般機械器具製造 □電気機械器具 電子部品・デバイス製造 □情報通信機器製造 □金融・保険業 □教育・学習支援業 □調査・研サービス業 □建設業 □分析オペレーター □システムエンジニア □中学・高等学校教員 □公務員	目指せる業界・職種
目指せる資格	□技術士・技術士補 □測量士・測量士補 □土壌調査技士（地質調査業務） □プロジェクトマネジメントエンジニア（PE） □建築士 （一級・木造建築士） □土木施工管理技士 （1級・2級）	□技術士・技術士補 □交通工学研究会認定TOP交通技術資格者） □土木学会認定技術者資格 □コンクリート技士・主任技士 □コンクリート診断士 □測量士・測量士補 □福祉住環境コーディネーター □土木施工管理技士（1級・2級） □都市計画プランナー □ダム水路主任技術者（1種・2種） □コンクリート技士・主任技士 □コンクリート診断士 □土木鋼材管理者 □宅地建物取引士 □地質調査技士	□建築士（一級・二級・木造建築士） □木造建築士 □施工図・設備図作成技士 □宅地建物取引士 □測量士・測量士補 □建築士事務所 □インテリアコーディネーター □インテリアプランナー □衛生管理者 □技術士・技術士補 □建築士事務所 □不動産鑑定士 □建築施工管理技士 （1級・2級） □建築物エネルギー消費性能適合性判定員 □建築物石綿含有建材調査者	□建築士（一級・二級・木造建築士） □構造設計一級建築士 □設備設計一級建築士 □技術士・技術士補 □建築設備士 □土木施工管理技士（1級・2級） □土木施工管理技士（1級・2級） □管工事施工管理技士（1級・2級） □電気工事施工管理技士（1級・2級）	□建築士 一級・二級・木造建築士） □技術士・技術士補 □宅地建物取引士 □建築施工管理技士 （1級・2級） □測量士	□建築士 一級・二級・木造建築士） □技術士・技術士補 □宅地建物取引士 □建築施工管理技士 （1級・2級） □土木施工管理技士（1級・2級） □管工事施工管理技士（1級・2級） □電気工事施工管理技士（1級・2級）	□大型特殊自動車 運転免許 □情報処理技術者 試験 □建築物環境衛生管理技術者 □建築士 □3級自動車整備士 □安全管理者 □技術士・技術士補 □医療機器製造業 □責任技術者 □第一種冷凍機 運転免許 □エネルギー管理士 （熱） □プロフェッショナルエンジニア（PE）	□自衛隊移動ロボットの障害物回避構造みちるミラージュ □自律型ロボットの群制御 □自律走行型ガントリークレーン □振動制御デバイス □災害ロボット □レスキューロボット	□衛星打ち上げ用ロケット □人工衛星の設計・開発 □人工衛星による地上観測 □ロケットエンジン □ロケット制御 □ロケット誘導 □ロケット推進 □ロケット構造 □ロケット材料 □ロケット電子機器 □ロケット熱制御 □ロケット搭載機器 □ロケット地上設備 □ロケット打上げ運用 □ロケット追跡管制 □ロケット軌道力学 □ロケット誘導制御 □ロケット推進薬 □ロケット構造設計 □ロケット熱設計 □ロケット搭載機器 □ロケット地上設備 □ロケット打上げ運用 □ロケット追跡管制	□電気主任技術者 （第一種・第二種・第三種） □陸上特殊無線技士 （第一級・第二級） □陸上特殊無線技士 （第一級） □海上特殊無線技士 （第一級・第二級） □陸上特殊無線技士 （第一級・第二級） □海上特殊無線技士 （第一級・第二級） □第一種電気通信主任技術者 □電気工事士 （第一種・第二種） □電気通信設備工事担任者 □事担任者 □基本情報技術者 □ディジタル回路設計・製作技術者 □CGエンジニア検定 □オラクルマスター	□IT/ハード □基本情報技術者 □応用情報技術者 □情報セキュリティマネジメント □ネットワークスペシャリスト □データベーススペシャリスト □ITサービスマネジメントスペシャリスト □アプリケーションエンジニア □システム監査技術者 □プロジェクトマネージャ □ITストラテジスト □システムアーキテクト □プログラマー □ネットワーク □データベース □エンベデッドシステムスペシャリスト □組込みシステム技術者 □情報セキュリティアドミニストレータ □ネットワーク □システムアーキテクト □プロジェクトマネージャ □システム監査技術者	□医薬部外品製造業 責任技術者 □医療機器製造業 責任技術者 □環境計量士 □危険物取扱者 （甲種・乙種） □環境 □大気関連 □水質関連 □騒音・振動関連 □ダイオキシン類関連 □水質・土壌関連 □毒物劇物取扱者 □公害防止管理者 □水質関連 □大気関連 □騒音・振動関連 □ダイオキシン類関連 □エネルギー管理士 （熱） □危険物取扱者 □公害防止管理者 □水質関連 □大気関連 □騒音・振動関連 □ダイオキシン類関連 □エネルギー管理士 （熱） □危険物取扱者	□化粧品製造 （輸入販売）業 □毒物劇物取扱者 責任者 □作業環境測定士 （第一種・第二種） □医薬品製造 （甲種） □毒物劇物取扱者 責任者 □バイオマテリアル □ナノ・バイオ・医療材料 □高分子・繊維材料 □生体適合性材料 □多成分同時分析 □有機合成	□基本情報技術者 □ITパスポート □情報セキュリティマネジメント □応用情報技術者 □CGエンジニア検定 □画像処理エンジニア検定 □マルチメディア検定	□建築士（一級・二級・木造建築士） □建築設備士 □土木施工管理技士（1級・2級） □土木施工管理技士 （1級・2級） □福祉住環境コーディネーター	□インターネット検定 （com Master） □CATIA V5 Associate □危険物取扱者（甲種） □消防設備士（甲種） □作業環境測定士	目指せる資格
学修KEYWORD	□材料力学 □コンクリート工学 □構造力学 □地盤力学 □水理学 □都市計画 □交通計画 □上下水道工学 □河川工学 □海岸工学 □測量学 □リモートセンシング □防災・減災 □都市・景観デザイン □親水空間 □マーケティング □交通情報工学 □交通情報システム □交通管理工学 □交通計画 □都市計画 □地盤力学 □コンクリート工学 □交通事業	□建築設計 □構造力学 □応用力学 □構造工学 □建築設備 □建築材料 □都市計画 □鉄筋コンクリート構造 □鋼構造 □コンクリューブデザイン □建築法規 □都市計画 □建築材料 □都市計画 □鉄筋コンクリート構造	□建築設計 □RC・S構造 □木造構造 □ファッション・プロフト □防災計画 □ランドスケープデザイン	□建築設計 □設備設計 □水理学 □海洋工学 □海洋構造物設計 □海洋再生可能エネルギー開発 □海洋環境保全 □沿岸管理 □浮体式構造物設計	□防災情報の地域内伝達システムの確立 誰もがわかやすいまちのサイン計画 □地震に強い水道施設システムの構築 □地域防災に向けたGIS・マップの電子情報化 □災害発生危険度予測から 地域データベース	□スポット溶接疲労の疲労強度 □レーザー照射 □熱伝導解析 □鋳鉄ボルト疲労の耐性評価 □微小切込り時の研削機構	□サポートベクターマシンを利用した 物体認識 □サポートベクターマシンを利用した 余寿命推定 □車体構造モニタリング機能を有するITS □デジタル画像処理を利用した画像検索 □ニューラルネットワーク	□管工事施工管理 技士（1級・2級） □建築施工管理 技士（1級・2級） □建築工事施工管理 技士（1級・2級） □躯体施工管理 技士（1級・2級） □2級自動車整備士	□3級自動車整備士 □安全管理者 □技術士・技術士補 □医療機器製造業 □責任技術者 □エネルギー管理士 （熱） □プロフェッショナルエンジニア（PE）	□スペースクラウド □超小型人工衛星を用いたメッシュネットワーク □衛星インターネット網	□ロボット工学 □コンピュータシミュレーション □人工知能 □ロボットビジョン □光工学	□ロボット工学 □コンピュータシミュレーション □人工知能 □ロボットビジョン □光工学	□材料・流体・熱力学 □機能医学 □構造力学 □電気回路 □半導体工学 □情報・電子計測 □制御工学	□物性材料 □自動車・エネルギー制御 □ロボット工学 □波動・情報 □センシング □無線通信 □電子回路 □ソフトウェア	□組込システム □情報デバイス □情報セキュリティ □ネットワーク □センシング □キャリアデザイン □インターンシップ □プロジェクト実習	□バイオマテリアル □ナノ・バイオ・医療材料 □高分子・繊維材料 □生体適合性材料 □生物環境学 □科学史	□代数幾何学 □数論 □複素解析学 □ディオファントス 問題 □有限単純群 □グラフ理論と 離散幾何	□プロジェクト実験 □数値計算理学 □原子核物理学 □宇宙物理学 □プラズマ物理学 □核融合学 □物性物理学 □生物物理学 □科学史	□人工知能 □学習理論 □コンピュータ グラフィックス □情報ニュートワーク □アルゴリズム数理	□建築設計 □建築史 □建築構造 □構造力学 □建築基礎構造 □環境工学 □建築計画 □建築材料	□都市計画 □ランドスケープデザイン □インテリアデザイン □ユニバーサルデザイン □インテリアデザイン □造形デザイン	学修KEYWORD
持続可能なエネルギーをつくりたい	□小水力・マイクロ水力発電 □波力を利用した発電 □ソーラーパネルを利用した エネルギー活用 □海上風力を利用した発電 □微生物燃料電池	□低炭素交通社会 □スマートシティ・コンパクトシティの構築 □ITS（高度道路交通システム）の構築 □電気・燃料電池車のステーション計画		□消波ケーソンを利用した波力発電 □浮体式波力発電の開発 □浮上風力発電施設の開発 □浮体式洋上風力発電の開発 □開発地域の合意形成と海洋空間計画	□下水処理水の熱の再利用法 □海藻による燃料開発 □太陽パネルで生成した電気を活用したゴミ焼却システム □ゴミフェーション促進のための地域整備	□イオン液体・二酸化炭素発電サイクル □オーガニックランキンサイクル □地熱発電システム □熱流体発電 □マイクロ電磁誘導発電システム	□異材接合による輸送機器燃費向上 □都市ガスエンジン □高温ガスタービン □水中航行艇の推進 □地球温暖化効果ガス（炭素）冷凍サイクル □マイクロ電磁誘導発電システム	□グリーンアビエーション □電動航空機 □地球環境衛星 □プラズマエンジンスラスタ □流れの制御装置 □内燃機関の高効率燃焼 □超希薄燃焼 □HCCI燃焼 □機械学習を用いた燃焼解析	□風力発電の出力変動評価 □潮流利用発電の系統連系 □水分解光触媒を用いた燃料電池 □波力発電装置 □ドローンによる環境計測システム □ファインバブルによる水浄化と 重金属回収 □高温形燃料電池の開発	□無線電力伝送 □宇宙エレベーターケーブル作製 □微小電力回収技術 □振動発電デバイス □熱電変換素子デバイス □スマートグリッド	□省エネ列車群制御 □省エネ列車走行	□水素による次世代エネルギー □分子エネルギー変換 □微生物（バイオマス）の活性利用 □太陽光を用いる物質の合成	□微生物燃料電池 □光触媒による環境浄化 □生分解性高物吸収材料 □廃棄物ゼロエミッションを目指した 物質の性質と推測 □高温技術の高度利用	□有機溶媒に代わる環境にやさしい物質 □植物資源から環境にやさしい新材料 □廃棄物処理のための分析法	□高輝度蛍光線源による環境浄化 □有害物質のプラズマ分解 □交通流と渋滞の解析 □中性子源による地震探査 □ミュオンによる火山の非破壊検査	□環境ビッグデータの形成と分析 □コンピュータグラフィックスの活用	□まちの活性化のためのデザイン □新旧が融合したまちづくり □安全・安心な居場所づくり □快適で、地盤の弱点 □市街地での自爆伝搬シミュレーション □都市騒音の低減対策	□環境分析 □生活保守分析 □因子分析	まちのアメニティを追究したい
まちのアメニティを追究したい	□海岸リモートセンシング技術による □水辺から望まれる風景構造と景観評価 □駅上屋における豪雨対策 □伝統的建造物群保存地区の道路のあり方	□自転車や電気自動車のシェアリング □公共交通機関の役割と課題 □鹿といのるおう防止管理 □カーフリーゾーンの導入 □キッズポートで移動するおでっぱ	□環境と共生するサステイナブルな建築・都市デザイン □ユニバーサルデザインを目指した空間設計 □都市空間における「光」の演出 □建築工事や交通に伴う振動・騒音 □建築とアート（芸術活動）の関係 □限心地の良い場所をつくる □建築と街路（ストリート）が連携した 楽しい歩行者空間の創出	□水と緑を生かしたまちづくり □海洋景観の保全と利活用 □海洋再生可能エネルギーとスマートシティ	□心休まる凌ぐ水辺があるまちづくり □人がいつでも集う場所の形成 □子どもがお年寄りまでの楽しめるまちづくり □公園や記憶のないまちづくり □子育てしやすいまちづくり	□空気輸送 □熱流体の変動シミュレーション □環境輸送量と周辺環境 □熱流体解析プログラム □風力発電機と制御法 □ハイブリッドロータ用 超小型対向ピストンエンジン	□快適な空間 □照明による概日リズム □ストレスの軽減 □スポーツの社会的効果の普及 □防犯都市の形成方策	□医療ロボット 快適な視知覚 □運動機能の改善 □体内医療機能用マイクロロボット □脳波計測による診断 □バイタルセンサ利用の生体計測	□道環型生命維持系（宇宙基地）	□バイオセンサ □診断支援システム □遺伝子解析技術 □省エネルギー大容量情報記録 □無害なリゾート・トレーニング支援 □微小球状光共振器バイオセンサの開発 □電磁波レーダによる汚染水の解析 □リ波レーダによる心拍センシング	□歯科検診連携システム □医療情報システム □薬剤情報システム	□生体内の微量化学物質を分析する □ガンを予防する新しい物質の創製 □薬剤性肺疾患の早期診断・治療技術開発 □人工DNA □医薬品の溶解度 □生体適合性材料 □疾患バイオマーカーの探索	□プラズマによるガン治療法の開発 □脳や情報伝達システムの研究 □生体光学イメージング □微小神経構造から解き明かす老化 □優くないマイクロ波マモグラフィの開発 □計算機によるインシリコ創薬	□音環境における健康と快適のデザイン □地球共生と住環境づくり □自然を取り入れた環境デザイン □駅ビルアートなどの公共施設の音環境改善 □騒音測量から遮行のスピーチプライバシー	□建設会社（設計・施工管理） □設計・事務所（設計・構造） □住宅メーカー（設計・施工管理） □設備（設計・施工管理） □建材・管理（営業） □インテリア・内装（設計・施工管理） □造園・エクステリア（設計・施工管理） □不動産（営業・コンサルタント） □公務員 □4年制大学への編入学	□医療情報ビッグデータの形成と分析 □AIによる画像診断	□照明器具の違いによる 生活環境改善の解析 □天然物からの生理活性物質の抽出、 □医薬品成分の簡易合成法 □酵素活性と濃化の考察 □機能性物質の構造と機能の関係 □特殊光学への導入学	人々の健康の役に立ちたい
人々の健康の役に立ちたい	□風の中でも騒音を測ることができる 新しい騒音計 □風力発電を利用した 潮流の水質保全 □公園緑地の整備状況と管理 □放射線遮蔽コンクリート □川を流れる水質の環境動態解析と 環境管理	□高齢者のための地域交通システムの実現 □交通施設と車両のバリアフリーの推進 □スクアール・ネットワーク計画 （スタントバーンズによる事故再現の交通安全教育） □緊急車両優先信号の導入 □ドクターヘリシステムの効率化 □健康のための歩行・自転車交通環境整備	□都市に潤いを与える 公園や広場のデザイン □都市緑地・風致景観設計の創造 □住宅のエネルギー消費と暖冷房設備	□海洋レクリエーション技術普及 □水辺の癒やしの効果の測定技術開発 □生活用水の水質改善技術	□電磁波（放射線含む）の健康影響 □歩いて健康になるまちづくり □都市開発とコミュニティ □スポーツの社会的効果の普及 □防災都市の形成方策	□医療ロボット 快適な視知覚 □運動機能の改善 □体内医療機能用マイクロロボット □脳波計測による診断 □バイタルセンサ利用の生体計測	□ロボット工学 □コンピュータシミュレーション □人工知能 □ロボットビジョン □光工学	□宇宙ロボット □宇宙機システム □宇宙環境利用 □人工衛星 □ハイブリッドロケット	□3次元形状復元の画像処理 □自律型ロボットの障害物回避 □光ファイバセンサ □多機能耐熱材料 □超小型人工衛星による地上観測	□AIを搭載したヒューマノイドロボット □感染情報処理システム □多機能耐熱材料 □省エネルギー大容量情報記録 □マイクロマシン □人工知能チップ用半導体デバイス	□顔画像処理による表情認識 □ロボットシミュレーションインターフェース □高度な組込みシステムを構築する技術	□分子レベルから設計された □機能性材料 □メカノバイオロジー	□神経伝達機構の研究 □発電・蓄電などのデバイス □神経発火の理論解析 □神経ネットワークのグラフネーター解析 □高感度CL二海原土成法の開発	□倫理的なAI	□ロボットの耳になる音の方向検出マイク	□生体適合材料の開発	ロボットとの共生を実現したい
ロボットとの共生を実現したい	□建設機械の無人化 □自動化による高度施工法 □深海におけるロボット計測技術 □災害予測のための計測技術	□スマートモビリティの導入 □自動運転車両を支える道路の開発 □ドローンを用いた防災・災害対策の確認 □道路線作成の工事車両の無人化施工 □ロボットの活用に向けたシンボル感覚融合様 □ロボットによる配ビタシステム制御		□海底資源探査ロボット技術開発 □海洋安全記録計測システム技術開発 □浮体空全保護のためのロボット □ドローンを用いた環境計測・安全監視	□人間とロボットが共存するまちづくり □電力ロボットが活躍するまちづくり □ロボットによる観光案内システム	□H∞制御 □ロボットアーム・手先空間制御 □人間の制御動作解析 □フレキシブルロボットアーム □ロコスト制御 □ベクリング動作	□飛行ロボット □宇宙ロボット □パワー技術	□3次元形状復元の画像処理 □自律型ロボットの障害物回避 □光ファイバセンサ □多機能耐熱材料 □省エネルギー大容量情報記録 □マイクロマシン □人工知能チップ用半導体デバイス	□AIを搭載したヒューマノイドロボット □感染情報処理システム □多機能耐熱材料 □省エネルギー大容量情報記録 □マイクロマシン □超高速情報記録	□分子レベルから設計された □機能性材料 □メカノバイオロジー	□神経伝達機構の研究 □発電・蓄電などのデバイス □神経発火の理論解析 □神経ネットワークのグラフネーター解析 □高感度CL二海原土成法の開発	□倫理的なAI	□ロボットの耳になる音の方向検出マイク	□生体適合材料の開発	
最新技術で宇宙を開発したい	□衛星リモートセンシング □月面と構造物の施設の施工技術 □無重力下における建設技術	□準天頂衛星（QZSS）を活用した 各種自動運転化 □障害物の高速検出 測位精度の評価と活用 □衛星画像を活用した交通計画や 土地利用計画 □スペースステーションの計画基準 □宇宙への配送計画	□折り紙などの原理を用いた展開構造 □折りたたみ可能な展開構造の技術	□衛星による海洋汚染監視 □衛星の海洋利用基礎設計 □GPS全地球測位システム □宇宙エレベーターの浮体式海上基地 □衛星による多点波浪観測技術の開発	□GPSを用いたマングローブ林の 保全計画 □衛星画像を利用した海洋モニタリング技術	□宇宙エレベーター □宇宙で使うマイクロマシン □電子機器用ICの放熱保護 □宇宙エレベーターの浮体式海上基地 □衛星による多点波浪観測技術の開発	□スペースプレーン □宇宙基地 □太陽系小天体観測 □探査 □AI技術応用 □人工衛星 □ハイブリッドロケット	□MPDスラスタ □火星探査 □小惑星探査機 □探査衛星 □自己開閉大型 柔軟構造物 □衛星間光通信	□宇宙通信用アンテナシステム □無線電力伝送 □宇宙エレベーターケーブル作製 □静電気分布計測技術 □人工衛星搭載用半導体素子の開発 □次次空間における経路探索	□学習機能を有するニューロチップ □衛星用軽量電力アンテナ □宇宙エレベーターケーブル作製 □静電気分布計測技術 □人工衛星搭載用半導体素子の開発 □衛星用展開型アレーアンテナ	□GPSを利用した物体の姿勢推定 □開引き絵型アレーアンテナ	□宇宙開発用新素材 □極限環境で働く酵素	□電気推進法の開発 □熱流体現象の基礎研究 □宇宙用電子部品の開発 □宇宙機のプラズマシールド 突発的な被害 □核融合による惑星間飛行 □超高速プラズマ流による実験室天文学	□スペースコロニーの居住対策と音響設計	最新技術で宇宙を開発したい
新マテリアルを開発したい	□老朽化したコンクリートのための補修材料 □既存の生コン工場で超高強度コンクリート □透水性・吸音性・吸熱性のある遮筋舗装 □構小軽量化技術	□建設発生土や廃材の構種のなり有効利用 □エココンクリートの開発 □廃材を利用した快適表面無材の開発 □交通インフラの健全性診断手法の開発	□ハイブリッド構造 □建築資材の開発 □施工性を向上させたコンクリートの調合	□海底資源の開発 □海洋構造物の新建築材料開発 □海藻によるバイオエタノール	□景観・屋上の景観緑化事材 □景観に配慮したストリートファニチャー	□液中粉粒体の分散 □カラス繊維 □炭素繊維 □残留窒化 □熱可塑樹CFRP	□界面組織制御複合材料 □多層セラミックス □低温焼成セラミック □ポリイミド薄膜多機能化 □ポリマーセンサ □有機人工筋肉アクチュエータ	□高機能金属材料 □高機能複合材料 □放電プラズマ焼結法 □超軽量宇宙構造物	□超音波による異種金属接合 □ナノテクノロジーによるセンサー □人工光合成用の材料開発 □熱発電材料の開発 □超高感度分子センサー □プラズモン共振器	□室温超伝導物質探索 □ナノテクノロジーによるセンサー □原子レベル物質設計・作製 □マグノンデバイス材料 □自己組織化ナノ材料 □スピントロニクス材料	□ビッグデータの分析 □教育支援システム	□ビッグデータと AIの活用プラットフォーム	□新しい光応答性金属ナノ粒子の合成 □光ファイバに応用する高分子材料 □超発光蛍光体の合成 □微生物の代謝機能を利用した 物質機能性分子 □新しい高水素密度材料の探索 □生体適合性材料	□プラズマによる機能性薄膜生成 □超伝導材料の開発 □新結晶構造材料の開発 □超フリー強熱電材料 □次世代エネルギー変換素子 □次世代コンパクトメモリ材料 □プラズマによる高硬度DLC製膜	□ビッグデータと AIの活用プラットフォーム	□建築新素材の開発 □新型吸音材料と断熱 □静かな空間をつくる吸音素材	□MEMSを用いたセンシング技術の研究 □ナノテクノロジーによる特性解析 □誘導電動機の減電圧併始による特性解析 □AEセンサーの開発と評価に関する研究 □環境保全の次世代エネルギー変換素子 □天然素材を広い分野で利用する技術	新マテリアルを開発したい
シミュレーションで未来を予測したい	□交通需要予測 □河床低下および局所洗掘の防止対策 □ニューラルネットワーク □ニューテクノロジーの経年変化による人口変化 □活性汚泥モデルを用いた水質予測	□混雑交差点の交通シミュレーション改善案 □交通ビッグデータ □交通利便性向上策の検討 □鉄道の混雑情報提供システムの導入 □航空需要予測と最適機材計画の検討 □交通インフラの健全性診断手法の開発	□ユビキタス社会に対応した建築都市計画 □新しい構造システムや新素材を用いた 建築空間 □構造体コンクリートの診断技術	□津波による建築物への影響予測 □水害・津波災害のデータベース □地球環境変化と海洋動態予測 □海岸・海洋の変形予測	□人口減少時代のまちづくり □災害予測データを生かしたまちづくり □地域防災ハザードマップの作成 □観光客を将来的に増やすための 観光地分析 □複数における最適の ランドスケープ予測と計画	□角材から発生する広帯域騒音 □スポット溶接構造 □疲労強度特性評価方法 □多目的最適化法 □最適加工条件の推定 □微細穴電加工用電極小型製造方法 □並列型設計論 □